

方剂名 書籍	効能	生薬組成 主治および証 病機 方意
癰瘍剤 外瘍剤 (陽証) 2		
ごみしょうどくいん 五味消毒飲	清熱解毒・消散疔瘡	金銀花 15g・野菊花・蒲公英・紫花地丁・紫背天葵子各 6g 水煎し、酒を少々加えて服用する。薬物残渣を搗き碎き患部に貼布する。
医宗金鑑	<p><主治> 各種疔毒、癰瘡癰腫 局所の発赤、腫脹、熱感、疼痛が生じ、隆起して根脚が深く堅硬であり、舌質が紅、舌苔が黄、脈が数を呈する。</p> <p><病機> 温熱火毒を外受したり、辛辣炙燥の物（辛辣なものや熱いもの）を嗜好したために、臟腑に熱が蘊積して火毒が結聚し、肌腠に邪が搏結し、熱毒が蘊蒸して気血を壅滞させた状態である。 熱毒が蘊蒸するので発赤、腫脹、熱感があり、気血が壅滞するので疼痛が生じ、熱毒が盛んで気血壅滞が強いために隆起して根脚が深く堅硬であり、舌質が紅、舌苔が黄、脈が数を呈する。</p> <p><方意> 清熱解毒を主体にして積熱火毒を清解消散する。 主薬は金銀花で、清熱解毒すると共に邪熱を透発する。清熱解毒の紫花地丁・紫背天葵子・蒲公英・野菊花は、主薬を補佐する。少量の酒を加えることにより血脈を行らせ、薬効を局所に到達させる。</p> <p><参考> 本方（五味消毒飲）は疔瘡腫毒に対する主要な方剂である。 加減法 発赤、熱感、腫脹が強いときは、清熱解毒の黄連などを加える。 腫脹が甚だしい場合には、疏風消腫の防風・蝉退を加える。 充血、皮下出血などが顕著なときは、清熱涼血の赤芍・丹皮・生地黄などを加える。 本方（五味消毒飲）は、仙方活命飲と同じく清熱解毒の効能をもつが、仙方活命飲<校注婦人良方>は消散活血が主体で、清熱解毒を兼ねており、本方（五味消毒飲）は清熱解毒が主体である。</p>	